

研究タイトル:わが国7,8世紀の文芸における神話的言説



氏名:	小村宏史/OMURA Hiroshi	E-mail:	h-omura@numazu-ct.ac.jp
職名:	教授	学位:	博士(文学)
所属学会・協会:	上代文学会,古事記学会,早稲田大学国文学会,早稲田古代研究会		
キーワード:	上代文学, 日本神話, 古事記, 日本書紀, 古風土記, 先代旧事本紀, 出雲国造神賀詞		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な後期中等教育レベルの古典文学に関する講義が可能. 古事記, 日本書紀, 古風土記, 万葉集などといった上代文献については, 先学の研究成果をふまえた文学研究的視座での講読が可能. 		

研究内容: わが国古代の文芸における神話的言説

技術分野: 人文・社会

神話とは何か? その定義については, 先学諸氏が様々に説いていますが, ほぼ外すことなく言及される点があります。それは「神話は現実世界を支え, 規定するものである」ということです。神という超越的な存在の事績を語ることによって, その宗教的・呪術的な力によって, 現実世界に存在する疑問(宇宙の成り立ち, 人の生き死に, 社会の道徳, 地名の起源など)を解消する力を持ち, 人々の信仰対象となっていたもの, それが神話です。昔話が「むかしむかし」の「あるところ」の話として客観化されて語られるのに対して, 神話はその享受者にとって道徳・社会秩序・信仰などに直接かかわる力をもつ, より生々しいものであったと言えます。

ところで, 私たちが上代文献で目にする神話は, 古代日本人の共有財産として語り伝えられていた神話本来の姿をとどめたものではありませんし, そのすべてでもありません。『古事記』『日本書紀』に見える神話は, 元来古代の民衆の間でそれぞれ独自の発生をし伝承されていたと考えられる群小神話が, 天皇家の歴史形成, および大和朝廷による支配の正当性の主張, という政治的要請のもとで体系化されたものとみなされています。

こうした神話テキスト(文字化された神話)に向き合う際には, 編述者が古層としての本来の神話からなにを取材し, どのような意図をこめて整理・変改・創作していったかをみさだめることが重要になります。わが国7, 8世紀の知識人には, 既に相当な文字文化の蓄積がありました。当時は神話という装置のもつ力への信頼が生きていた時代でもあり, 一方でその言説による拘束力を意識的に利用し, 文字表現を駆使し, 観念のなかでそれらを再構成し得た時代でもあったのです。

神話は, 現実世界の危機や矛盾を契機に呼び出されます。それぞれの神話テキストが見据え, 解消することが求められた危機とはなんだったのか, またそれが実際にどんな影響力を持ち得たのか, それらを文脈の検討を通して見定めていくことが当面の研究目標です。

研究者 PR・自己紹介

神話というと, 研究対象としていかにも浮世離れたもののように聞こえるかもしれませんが, 実際には現代社会においても, 人が神話的言説を求めることは決して稀ではありません。たとえば, 結婚です。手続き上は, 役所に婚姻届を出せば, それで結婚は成立するはずですが, 結婚にあたって教会や神社に赴き, 神秘的・超越的存在の保証のもとで新生活をスタートしようとするのではないのでしょうか。危機・不安等々を迎えたとき, 理屈を超えた何者かの支えを得ようとする例は, 個人レベルだけでなく地域社会や国家といった共同体レベルでも同様にみることができます。

神話的言説の研究について, 私は現実のさまざまな事象を読み解く意義を有するものと位置づけています。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

教
養
科